

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700088		
法人名	社会福祉法人百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉南部の郷		
所在地	山梨県南巨摩郡南部町南部8058-1		
自己評価作成日	令和元年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年9月17日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設として地域行事への参加、地域ボランティアの受け入れ、またお客様については南部町の地域の一員として此処に住んでいると思ってもらえることを念頭に置きサービスの提供をしている。ご家族様との関係、結びつきを大切にするために2か月に1度の運営推進会議、半年に1度の家族会の開催、施設内でのお客様の表情、状況をお伝えする広報誌・南部の風を発行している。サービス提供するための職員教育として介護福祉士実務者研修を法人負担で実施し介護福祉士の育成を行っているほか百葉の会のスケールを活かした職能研修、テーマ別「研修への参加を促し多用するニーズに対応するべく体制を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は県の南部、富士川沿い南部町の旧市街地に隣接した医療・福祉地区に位置している。デイサービスと併設した鉄骨2階建ての1階、2階の2ユニットになっている。デイサービスの利用者と日常的に交流があったり、地域のボランティアの訪問や事業所で開催するお祭りに地域住民の参加を呼び掛けたりと住民の集いの場所を提供している。ユニット毎に職員の配置を分けることなく、全職員が利用者に関わり、一人ひとりがこれまで送られてきた生活を大切に支援に努めている。日中の時間帯は、職員の人数を手厚くし、より良いケアを目指している。また、毎日のように更新している事業所のブログにより家族等は利用者の日常の様子を知ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果 事業所名 **グループホーム百葉南部の郷** 〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人事業計画から事業所目標、部署目標を策定、毎月の部署会内で目標進捗状況を確認することで状況を共通認識している。	同左	法人の理念とは別に「にこやかで個性豊かに」の事業所理念があり、事務所内に掲示してある。また、毎年利用者に対する事業所・部署目標を決めて毎月の職員会議で話し合い、利用者一人ひとりに対して理念及び目標がケアに反映しているか確認し、職員間で共有し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設デイサービスと協働して、地域ボランティアを招き地域との交流を図っている。またデイサービス利用者との交流することのより昔からの顔なじみとの交流を図っている。	同左	事業所周辺に民家が無く、日常的に住民との交流は難しいが併設のデイサービス利用者が地元の方であったり、訪れるボランティアが顔見知りのこともあり交流している。事業所で開催する秋祭りには、ポスターや放送で地域住民に呼び掛け、積極的に関わりを持つようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種研修を通じ認知症への理解を深めるように努めている。また広報誌を活用し認知症や感染症等の情報を提供している。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	お客様の状況を伝えると同時に、不安に思っている事への吸い上げに努めている。いただいた意見を会議録を通じ職員へ展開している。	同左	運営推進会議の参加者の都合を聞いて、2か月に1回会議を開催している。事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を聞いている。家族からは、「日々の様子を見たいのでブログをあげてほしい」「重度化した場合の入浴支援について」などの意見があり、それぞれサービス向上に反映した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	計画作成担当を通じて実情を情報共有している。	同左	主に計画作成担当者が町担当者との関わりを持ち、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えて情報の共有をしている。また、町から「認知症サポーター養成講座」開催の通知が来た時は出席している。休診日を利用して医師や介護職員、地域住民も参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ、やってはいけない事を共有、日々のケアに活かして取り組んでいる。	同左	年4回の研修会を設けている。外部から講師を招いたり、職員会議等で身体拘束、接遇について研修を行っている。研修の中で疑問があれば講師に聞いて理解し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠せず、利用者の様子を察知した時はさりげなく声をかけたり、一緒に行くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修を通じ、虐待と思われる行為への認識を深め職員同士で牽制しながらケアに取り組んでいる。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じ、制度等を理解し情報共有する事により知識の向上に努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正法があった時には説明会を開催している。また契約時には重要事項説明書やリスク説明を十分にし同意を得ている。	同左		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	同左	同左	年1回、家族アンケートを実施している。出された意見は職員会議で話し合い、対策を検討している。運営推進会議の中でもアンケートの結果を報告している。出された意見は玄関に貼り周知している。アンケートで出された居室や食事に関する意見には献立表を送付する等して対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同左	同左	リーダー以上の運営会議、デイサービスと一緒の職員会議、部署会議を月1回開催している。それぞれの会議の中で業務上の意見等を聞いている。半年に1回、管理者と職員の個人面談を行い、人員の確保やシフト変更等の要望があり対応している。また、日頃から職員の話聞くよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同左	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同左	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同左	同左		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同左	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同左	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同左	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同左	同左		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に変化があった際には計画作成担当者及びリーダーからご家族にお伝えし、ご家族の協力も得ながら支援をしている。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、地域のボランティアをお招きする事で顔なじみの方々と会話する機会を得ている。	同左	以前から付き合いのある、商店街に行って買い物をしたり、家族と一緒に行きつけの美容院やお彼岸にお墓参りに行くなど以前からのつながりを継続している。また、地域のあじさい祭やお茶祭には職員と一緒にいき、知り合いに会って話をしたりと人や場所の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話や関係が円満になるように職員も会話に入り支援をしている。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談に乗れる体制をとっている。また在宅復帰された方については定期的に状況確認を行っている。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との会話の中で行きたい場所、食べたいものを聞き、実現に努めている。	同左	利用者の担当職員が決まっていて、日々の関わりの中で把握した事は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。行きたい場所を聞いた時は、会議で検討して、企画し職員と一緒に出掛けるようにしている。思いや意向等を明確に把握できない場合は職員から提案して、気持ちを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談の際にご本人やご家族から聴取をし入居後も会話の中から拾い出しを行なっている。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	会議内や申し送りノート、ケア記録を活用した情報共有をリアルタイムで行っている。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、訪問看護師、ご家族、計画作成担当者、必要に応じ主治医を交え会議を行っている。	同左	関わりのあったケアマネジャー、本人、家族から聞き取り、初回相談記録・経過記録を作成し介護計画に反映させている。アセスメントを含むカンファレンスを行ない3か月で見直している。その後は6か月とし利用者の状態に変化が生じた場合には、モニタリングを基に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録、申し送りに気づきや対応策を記入し職員間で共有している。	同左		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせた支援に努めている。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流を推進している。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの医師との関係を尊重し、支援をしている。	同左	受診医や訪問診療の医師が以前からのかかりつけ医で本人・家族等が希望する受診ができている。かかりつけ医に家族が同行する時には普段の様子や変化を医師伝達表に記入して渡し、医師からも返信があり受診結果を共有している。また、訪問看護師が週1回来て、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師と併設デイサービス看護師との情報共有に努めている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院時、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院相談窓口や担当看護師と密に連携をしている。退院時には担当者会議を開催している。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルへの進行が考えられる際は主治医、訪問看護、ご家族を交えて会議を行っている。	同左	入居時に重度化や終末期について事業所の対応を説明して、承諾書に記入してもらっている。利用者の状況変化に応じて、主治医、訪問看護師、家族と繰り返し話し合いを行ない、随時意思を確認しながら取り組んでいる。ターミナルケアの職員研修があり、年1回は外部から講師を招いて新任職員を優先して終末期に向けた対応について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の普通救命講習の実施と事故発生時対応マニュアルに基づいた勉強会の開催をしている。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、勉強会を実施している。	同左	年6回、昼夜の防災訓練を実施し利用者と一緒に避難誘導訓練を行っている。火災、水害、地震を想定して実施し、記録に残し反省点も記入している。消防署立ち合いでの消火器訓練も実施している。また、起震車の体験を利用者もやっている。地域の消防団との協力体制もあり、一緒に訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自らが受けたいと思う医療と福祉の創造を念頭に置き、お客様の立場に立って対応をしている。	同左	利用者のその人らしさを大切にして言葉かけや対応に努めている。居室のドアは閉めてあり、声を掛けてから入るようにしている。利用者に対しての呼称は、基本的には苗字で苗字が同じ場合は名前での対応をしている。申し送り時や書類については、個人情報に配慮した対応を行っている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話にて想いや希望を引き出せるようにしている。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその日のお客様の希望に沿い支援をしている。	同左		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	お客様ご自身にて衣服の選定をしてもらい、必要に応じ着脱の介助をしている。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の重度化により準備は難しいが食器拭き、片付けは一緒にして頂いている。	同左	日曜日以外の昼食は、併設しているデイサービスで調理した副菜等が届き盛り付けている。朝食、夕食の食材は、利用者の好みも考慮して業者に発注し職員が調理している。食器拭きや片付け等利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。職員も一緒にテーブルを囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握できている、少ない際には必要に応じ声掛けをしている。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛け、排泄パターンを把握し支援をしている	同左	排泄チェック表を使用して、利用者の排泄パターンを把握している。各居室にトイレが設置され、使い慣れたトイレに行きたい時に行くことができ、見守り等さりげない支援に努めている。昼と夜のバットの大きさを替えて、夜間もおむつを使用しない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて個々に支援を行っている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の希望に沿い入浴の支援を行っている。	同左	毎日、午前・午後の入浴が可能である。毎日、一番風呂や一日おきの入浴を希望する利用者もいて、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。また、デイサービスの大きなお風呂に入ることで入浴困難な利用者の対応をしている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調をみて必要に応じ声掛けもしているが、基本はご本人のリズムで休息をして頂いている	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、薬情書を基に職員間で情報を共有して間違いのない服薬支援をしている	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りの事を職員と協力し携わって頂いている。生活歴を活かした役割をしていただく事で張り合いに繋げている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出行事は年間計画に沿って行っている。お客様の状態に合せ支援しており、ご家族様にも外出支援への協力を呼び掛けている。	同左	日常的な外出としては、事業所周辺を散歩している。利用者全員での外出は、年間計画を立て2か月に1回は普段は行けないような外出をしている。季節を感じる場所への花見やぶどう狩り等利用者の意見も取り入れて企画している。家族にもおたよりで参加を呼び掛けている。また、利用者の希望を聞いて個別外出の機会もあり、積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避の為、預り金は廃止しており、すべてを立替金にて処理をしている。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化により、電話等のやり取りが難しくなっているがお客様、ご家族から連絡があった際には支援をしている。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の創作物を共有空間に飾り季節を感じて頂くほか、必要に応じ温度・湿度の管理を行っている。	同左	1階、2階のユニットは同じ作りになっている。ワンフロアで中央に対面式キッチンがあり、調理や盛り付けの様子がわかり、家庭的な雰囲気を感じられる。小上がりの畳のスペースにはテレビが置かれ作業したり、くつろげるようになっている。壁には利用者の作品や行事の写真が飾られている。フロアの飾りを工夫して利用者に季節を感じるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様のご希望により、居室、共有スペースでの空間を使い分け対応している。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使用されたいた仏壇、タンス等を持ち込み自宅でも生活されていた時と同じ様に馴染みの物に囲まれた空間で過ごして頂けるよう配慮している。	同左	居室は全室フローリングでペット、トイレ、洗面台、カーテン、エアコン、クローゼットが備えつけてある。チェストや写真、仏壇等馴染みの生活用品を持ち込み配置し、それぞれの利用者が居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの設置物についてはお客様の身体状況に合わせ動線を配慮し設置をしている。	同左		